

さいほうじ しきやくもん  
西法寺の四脚門

鳥栖市重要文化財（建造物）

鳥栖市教育委員会



四脚門は西法寺の山門で、その建築様式から江戸時代後期の文化年間（1804～1817年）の建立と推定され、明治3年(1870)に他所より移築されたと伝えられています。構造は、一間一戸の四脚門で総ケヤキ造り、屋根は切妻造りの本瓦葺きです。大棟の両端に鯨、屋根の四隅に唐獅子を配しています。

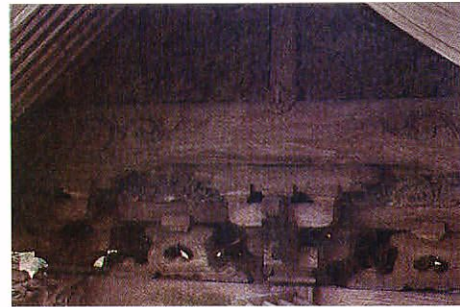
所在地 鳥栖市蔵上町440番地

所有者 西法寺

指定年月日 昭和48年3月7日指定



(1) 幕股の透彫



(4) 側面の組物



(2) 桁上部の透彫



(5) 頭貫の獅子頭



(3) 門扉の透彫



西清寺 四脚門

組物は二手先で、頭貫と桁との間は華麗で大瓶東の下に獅子咬み、上には皿斗が設けられています(4)。頭貫の先端には獅子頭(5)、桁の上部には竜波文あるいは瑞雲等の透かし彫りを配し(2)、幕股には菊花文と桐文との透彫があります(1)。その曲線は唐草文で飾られています。入口の両開きの扉には菊花文の透かし彫りがみられます(3)。

全般的に華麗で軒先の出が深く、屋根のひろがり門の規模の割には豊かであることも全体を豪壮なものに見せています。この四脚門は、市内に現存する数少ない江戸時代のすぐれた木造建築物として貴重なものといえます。また、田代上町西清寺の山門もその一つです。

### 西法寺

『西法寺縁由』(享保元年(1716)西法寺文書)によると、大同年中(806~809年)に弘法大師によって開かれた真言宗の寺院で、正法寺と号していたと伝えられています。

享禄年中(1528~1531年)にこの地域を治めていた「左馬の頭筑紫公」(筑紫惟門?)が、本願寺九世実如上人の遺命を受け山科から来た僧善徳という人の法力に感心し、真言宗の寺院であったところを寄進して善徳が浄土真宗の梵刹(寺)を開いたと伝えられています。

筑紫氏と縁のあったこの寺は、天正15年(1586)島津氏の北上の際に戦火をこうむりましたが、民衆と直接結びつき檀徒を獲得することによって廃寺となる危機を乗り越えました。